資料16：臨床能力の評価

卒後臨床研修目標改正案による評価

日本医学教育学会臨床能力評価ワーキンググループ*・卒後教育委員会**（平2.3）

A. 診察法

1. 初対面の患者に自己紹介をしてから，承諾を得てから診察をする. YES NO
2. 必要な情報を要領よく聴き出せる. YES NO
3. 全身の診察を正確かつ適切に行い，その明らかな異常所見を指摘できる. YES NO
4. 眼底の明らかな異常を指摘できる. YES NO
5. 鼓膜・鼻腔・咽頭・喉頭の明らか異常を指摘できる. YES NO
6. 直腸診で明らかな異常を指摘できる. YES NO
7. 男・女性器の明らかな異常を指摘できる. YES NO
8. 皮膚の異常を指摘できる. YES NO
9. 骨・関節・筋肉の明らかな異常を指摘できる. YES NO
10. 明らかな神経学的異常所見を指摘できる. YES NO
11. 小児とくに乳幼児では，不安を与えないように接することができる. YES NO
12. 親（保護者）から，発病の状況・心配となる症状・患児の生育歴・既往歴・予防接種歴などを要領よく聴取できる. YES NO
13. 小児の正常な身体発育・精神発達・生活状況を理解し，判断できる. YES NO
14. 妊娠の診断に必要な情報を聴取し，診察できる. YES NO
15. 収集した情報より患者の問題点を身体的・心理的・社会的・経済的に分けて明確化できる. YES NO
16. 各問題解決のための診断的計画・治療的計画・教育的計画を，優先順位を考慮して立案できる. YES NO
17. 立案した診断的計画・治療的計画・教育的計画を，その実践の結果および患者の状況変化を評価し，必要に応じて修正・発展させることができる. YES NO
18. 問題解決に必要な医療資源，コンサルテーションなどを積極的に活用できる. YES NO
19. 自己の臨床能力を越える状態の患者は，適切な時期に必要な専門医または専門機関に委ねることができる. YES NO
20. 診療録を適切に作成できる. YES NO

B. 臨床検査法

a. 自ら検査を実施し，結果を解釈できる.

1. 検尿 YES NO
2. 検便 YES NO
3. 血算 YES NO
4. 出血時間測定 YES NO
5. 血糖簡便検査 YES NO
6. 尿妊娠反応 YES NO
7. 動脈血ガス分析 YES NO
8. 心電図 YES NO
9. 腹部超音波検査 YES NO
10. 血液型検査 YES NO
11. 血液交叉試験 YES NO

b. 検査を適切に選択・依頼し，その結果を解釈できる.

1. 血液学的検査 YES NO
2. 血清生化学検査 YES NO
3. 免疫学的検査 YES NO
4. 肝機能検査 YES NO
5. 腎機能検査 YES NO
6. 内分泌機能検査 YES NO
7. 腫瘍マーカー検査 YES NO
8. 循環機能検査 YES NO
9. 肺機能検査 YES NO
10. 微生物学的検査 YES NO
11. 薬剤感受性検査 YES NO

---

* 主任：畑尾正彦，副主任：橋本信也，今中孝信，前沢政次，宮本尚彦，中木高夫，鈴木　忠，田中　勧，土屋　滋，植村研一

** については資料15に掲載

12. 穿刺液一般検査　YES　NO
13. 単純X線検査　YES　NO

c．検査を適切に選択・依頼し，専門家の助言を得て，その結果を解釈できる．

1. 病理学的検査　YES　NO
2. 内視鏡検査　YES　NO
3. 脳波検査　YES　NO
4. 心理検査　YES　NO
5. 超音波検査（心臓，その他）　YES　NO
6. 造影X線検査　YES　NO
7. X線 CT 検査　YES　NO
8. MRI 検査　YES　NO
9. 核医学検査　YES　NO

C．基本的処置・治療

a．滅菌・消毒法

1. 手指を適切に消毒できる．　YES　NO
2. 滅菌手術着や手袋を正しく着用できる．　YES　NO
3. 手術・観血的検査・創傷の治療などの無菌的処置を適切に行なえる．　YES　NO

b．採血法

1. 目的とする臨床検査の種類に応じて注射器や容器の準備を指示し，確認できる．　YES　NO
2. 臨床検査に必要な採血量を決定できる．　YES　NO
3. 静脈血を正しく採血できる．　YES　NO
4. 動脈血を正しく採血できる．　YES　NO
5. 採取した血液の検査前の処理を適切に行なえる．　YES　NO
6. 供血用血液を正しく採取できる．　YES　NO
7. 血液を扱うときに自己および周囲の汚染防止の手段を実施する．　YES　NO

c．注射法

1. 注射によって起こりうる障害の予防策と治療法を適切に実施できる．　YES　NO
2. 注射部位を正しく選択できる．　YES　NO
3. 以下の注射法の適応を正しく判断し，正確に実施できる．
   - 皮内注射　YES　NO
   - 皮下注射　YES　NO
   - 筋肉注射　YES　NO
   - 静脈注射　YES　NO

d．輸血・輸液法

1. 輸血の種類と適応を正しく判断し，正確に実施できる．　YES　NO
2. 血液型検査の依頼と解釈を適切に行い，交叉試験を正確に行い，適否を判断できる．　YES　NO
3. 適切な輸血量と注入速度を決定できる．　YES　NO
4. 輸血による副作用と事故に対して，適切な予防・診断・治療法を実施できる．　YES　NO
5. 輸液を正しく実施できる．すなわち，水・電解質代謝の基本理論に基づいて輸液の適応と輸液量を正しく判断し，適切な輸液製剤を選択し，正確に実施できる．　YES　NO
6. 輸液によって起こりうる障害の予防策と治療法を適切に実施できる．　YES　NO
7. 中心静脈栄養法の適応を正しく判断し，適切な薬液組成を決定し，中心静脈を確保して正確に実施することができる．　YES　NO
8. 中心静脈栄養法によって起こりうる障害の予防策と治療法を適切に実施できる．　YES　NO

e．穿刺法

1. 以下の穿刺法の適応を正しく判断し，正確に実施できる．
   - 腰椎穿刺　YES　NO
   - 胸腔穿刺　YES　NO
   - 腹腔穿刺　YES　NO
   - 骨盤腔穿刺　YES　NO
2. 実施する穿刺によって起こりうる障害の予防策と治療法を適切に実施できる．　YES　NO
3. 以下の処置の目的に応じて，必要な器具を選択し，適切に実施できる．
   - 内圧測定　YES　NO
   - 貯留液の採取　YES　NO
   - 排液　YES　NO
   - 脱気　YES　NO
   - 薬物注入　YES　NO
4. 採取した液について必要な検査を依頼し，その報告を解釈できる．　YES　NO
5. 薬剤注入の適応を正しく判断し，起こりうる障害の予防と治療法を適切に実施できる．　YES　NO

f．導尿法

1. 導尿法の適応と種類を正しく判断し，正確に実施できる． YES NO
2. 導尿によって起こりうる障害の予防策と治療法を適切に実施できる． YES NO
3. 膀胱穿刺の適応を正しく判断し，正確に実施することができる． YES NO
4. 膀胱穿刺によって起こりうる障害の予防策と治療法を適切に実施できる． YES NO

g．処方

1. 内服薬，外用薬，注射薬の適応・常用量・極量・禁忌・副作用・配合禁忌・使用上の注意を考慮して，薬物名・使用量・用法を正しく決定できる． YES NO
2. 病院の規則に従って，円滑に薬物が供給されるように処方箋を発行できる． YES NO
3. 薬物療法の効果と副作用を評価できる． YES NO
4. 麻薬を取り扱い上の手続きに従って，正しく処方し，適切に処理できる． YES NO
5. 小児の年齢区別の薬物量を決め，それに基づいて一般薬物（抗生物質を含む）を処方できる． YES NO

h．簡単な局所麻酔と外科手術

1. 繁用される手術器具（メス，剪刀，鑷子，鉗子，鈎，縫合針，縫合糸，持針器など）を適切に選択し，操作ができる． YES NO
2. 局所浸潤麻酔の適応を正しく判断し，その副作用に配慮しながら，正確に実施できる． YES NO
3. 以下の簡単な創面の止血法が行える．
   - ・圧迫 YES NO
   - ・圧挫 YES NO
   - ・結紮 YES NO
   - ・縫合 YES NO
4. 単純な皮下膿瘍の切開や排膿ができる． YES NO

i．術前術後

1. 手術，全身麻酔を行なうのに必要な既往歴を聴取した上で，必要な検査を依頼し，結果を判断できる． YES NO
2. 手術予定患者の不安に心理的配慮を行う． YES NO
3. 術前術後の処置を指示できる． YES NO

j．妊婦への対応

1. 妊婦に対してプライマリケアを積極的に行える． YES NO
2. 妊婦およびその家族に人間的な対応ができる． YES NO
3. 正常分娩の介助ができる． YES NO

D．救急患者の初期対処法

a．発症前後および来院までの情報を，本人・家族・同僚・付添人などから，短時間に効果的に収集することができる． YES NO

b．バイタルサイン（意識・体温・呼吸・循環動態・尿量）を正しく把握し，全身の診察を迅速かつ適切に行なえる． YES NO

c．諸情報をもとに迅速に初期診療計画を立て，それを実施できる． YES NO

d．患者のケアに際して，看護婦その他のコメディカルに対して適切な指示ができる． YES NO

e．適切な気道確保の方法を判断し，それを実施できる．

1. 1次救命処置
   - ・気道確保の体位と処置 YES NO
   - ・舌根沈下の予防と処置 YES NO
   - ・気管内異物の除去 YES NO
2. 2次救命処置
   - ・気管内挿管 YES NO
   - ・気管切開 YES NO

f．適切な人工呼吸の方法を判断し，それを実施できる．

1. ・用手法 YES NO
   - ・口―口法 YES NO
   - ・口―鼻法 YES NO
2. アンビュー YES NO
3. レスピレーター管理 YES NO

g．適切な循環管理の方法を判断し，それを実施できる．

1. 静脈確保 YES NO
2. 閉胸心マッサージ YES NO
3. 直流除細動 YES NO
4. 心嚢穿刺 YES NO

h．ショック改善のための輸液，輸血を的確に実施できる．　YES　NO

i．必要な緊急薬物を適切に使用できる．（速効強心薬，アシドーシス改善薬，昇圧薬，利尿薬，脳圧降下薬，気管支拡張薬，鎮痛薬）　YES　NO

j．胃洗浄ができる．　YES　NO

k．緊急的胸腔穿刺ができる．　YES　NO

l．創傷の基本的処置が行なえる．
- ・止血　YES　NO
- ・縫合　YES　NO
- ・感染防止　YES　NO
- ・副木　YES　NO

m．動脈採血をして血液ガス分析を行い，その結果を判断できる．　YES　NO

n．中心静脈圧の測定ができる．　YES　NO

o．適切な初期治療をしながら，専門医または高次医療機関に相談できる．　YES　NO

p．患者の転送にあたり，必要な予備的処置ができ，転送中の注意を指示できる．　YES　NO

q．情報や診療内容を正確に記録し，それを適切に伝達できる．　YES　NO

r．救急医療をめぐる重要な法律および考え方に基づいて，適切な診断書が書ける．　YES　NO

※救急医療において上記の初期診療能力が求められる範囲としては以下のものがあげられる．

1. 意識障害
2. 脳血管障害
3. 心筋梗塞・急性心不全
4. 急性呼吸不全
5. 急性腎不全・尿閉
6. 急性感染症
7. 急性中毒
8. 急性腹症
9. 急性出血性疾患
10. 外傷（創傷，四肢，頭部，脊椎・脊髄，胸部，腹部，その他）
11. 熱傷
12. 小児救急（発熱・発疹・下痢・嘔吐・腹痛・咳・呼吸困難・痙攣・異物事故・薬物誤飲および新生児救急を含む）
13. 流・早産および満期産開始

E．人間関係・社会・その他

a．インフォームド・コンセント

1. インフォームド・コンセントについて説明できる．　YES　NO
2. インフォームド・コンセントについての実例を呈示できる．　YES　NO
3. 病名告知の利点と問題点を列挙できる．　YES　NO

b．信頼関係

- ・信頼関係確立のための条件を説明できる．　YES　NO

c．チーム医療

- ・効果相なチーム医療を実施するための条件を説明できる．　YES　NO

d．末期患者のケア

1. 末期患者の病態と心理状態の変化について説明できる．　YES　NO
2. 末期患者のケアに全人的（身体的・心理的・社会経済的）に対応した実例を呈示できる．　YES　NO
3. 末期患者の家族への対応について説明できる．　YES　NO

e．死後の処置

1. 死後の法的処置について説明できる．　YES　NO
2. 自験例について，剖検にいたった過程を説明できる．　YES　NO
3. 剖検症例についてのプロトコールの要約を作成する．　YES　NO
4. 剖検に参加した．　YES　NO

f．健康保険制度

1. 実施する医療行為に対応する健康保険制度について説明できる．　YES　NO
2. 診療報酬請求明細書のチェックができる．　YES　NO

g．各種医療補助制度

- ・諸種の医療補助制度や社会補償制度に必要な書類を作成できる．　YES　NO

h．副作用報告

1. 医薬品の副作用報告書を作成できる．　YES　NO
2. 医薬品の副作用救済制度について説明できる．　YES　NO

i．診断書の作成

1. 各種の診断書について説明できる．　YES　NO

2. 診断書の作成に際して留意点を説明できる. YES NO

j. 自己学習

・実施した学習について自己申告する. YES NO

k. 診療に必要な医療法規

・診療に必要な医療法規について説明できる. YES NO

l. 診療内容の評価

1. 自己評価リストに記載する. YES NO
2. 定期的に他者からの評価を受ける. YES NO